

NPO・アジア金型産業 フォーラム発足



特定非営利活動法人アジア金型産業
フォーラム（略称：NPO・ADMF）

（東京都文京区本郷 理事長・黒田彰

一）はものづくりのマザーツールとして重要な金型産業が、自動車業界・電気産業界の海外移転やアジア諸国の技術力向上で、熾烈な外部環境に対応で

きない中小金型産業を支援することを目的としており、既存の縦割り機能では調整に時間がかかるプログラム課題を、組織横断的な機能により、企画・立案から実践までを行い、セミナーやシンポジウムを通じて金型業界の緊急課題や中長期テーマの検討を行い、政府機関、学会、工業会、各メーカーとの連携ができる水平思考展開を目指している。

当面の事業計画としては左記が予定されている。

①アジアへの金型技術移転教育プロジェクト：（財）海外技術者研修協会や国際協力機構などの金型技術移転プログラムを組織化し、アジア圏における金型産業人ネットワークを確立する。

②金型マイスターバンク・プロジェクト
：高齢・リタイヤ技能者の地位向上や若年技能者への技術継承を目的とし、金型づくりの人の輪を構築する。

③金型関連用語・翻訳システムプロジェクト：海外からの発注や技術情報の交換を効率よく実施するため、金型専門用語の英語への翻訳や技術書の自動翻訳補助などを行う。

④金型MOTプログラム・プロジェクト
：金型技術開発とビジネスモデル展開に関する社会人教育プログラムをアジア圏の大学を含む工学系大学院と協力

して開発する。

⑤金型づくり人材交流プロジェクト：金型産業に関する情報と関連人材データベースを一括運用し、各種セミナー・シンポジウムを開催する。

ADMFは金型産業に関わる法人と個人の連携により、官民からの補助金・助成金・寄付金などをもとにプロジェクトを推進し、成果を広く社会に還元する。

特にアジアの中へのわが国金型技術の展開により、21世紀の生産拠点であるアジアで活動する金型関連企業をサポートする。将来は、国際金型協会・アジア金型工業協議会の事務局の役割を任じ、次世代のアジア金型産業のあり方について研究、提言を行うアジア金型産業研究所の機能を果たしたいと考えている。

新型アーク溶接ロボット

「ARCMAN-MP」を発売

（株）神戸製鋼所溶接カンパニーは、新型アーク溶接ロボット「ARCMAN-MP」の発売を開始した。

溶接ロボット市場では、90年代に大量導入された旧世代機種が、更新時期を迎えており、「ARCMAN-MP」は、これまで2,000台の納入実績を持つ同社の「ARCMAN-IRON」の後継機として誕生した。

新型機「ARCMAN-MP」は溶接現場でのさまざまな問題や課題を解決することを目的に開発され、次のような特長を備えている。

- ①タンDEM溶接機能の強化とデータバンク化による操作性の向上
- ②大画面・キー反応速度の向上・CFカード採用による優れた教示操作性
- ③可搬質量140%・可搬トルク200%・各軸速度130%・手首のスリム化80%（従来比）等の可搬能力向上
- ④CPU処理速度10倍・メモリ容量4倍（従来比）によるコントローラの基本性能アップ
- ⑤小型化・軽量化・高剛性化と従来機との互換性

これらの特長はすべて「生産性向上」と「多機能化」を目的として開発されたものであり、より幅広いユーザーニーズに応えるための新機種が誕生した。

【問い合わせ先】—溶接システム営業室
電話 03-5739-6325（東京）
06-6206-6423（大阪）

第3回新機械振興賞

受賞候補者の募集4月7日開始

財団法人機械振興協会（会長 豊田章一郎／東京都港区芝公園3-5-8）では、機械工業振興のため、「新機械振興